



## 危機的財政難に どう立ち向かうのか

木村 清 貴 議員

### 財政計画について

**質問** 新年度の予算は、基金を30億円も切り崩し、基金残は目的基金も含めて7億3千万しかない。危機的状況の中で、タブー視されていた部分

への踏み込み等、強いリーダーシップを発揮した「市長色」を出すべきでなかったか。全体的にはらまき政策の名残に見られるように「総花的」印象を隠せない。また、厳しい状況の中で、精度の高い財政

計画を立てるといだが、新市建設計画、総合計画との整合性をどうとるのか。

**答弁** いかんにか財政の均衡をとるかとの意味では総花的であったと言わざるを得ない。今回の予算編成を戒めにして今

後につなげたい。  
18年度は17種類の計画策定を行う。総合計画の裏付けとしての財政計画である。10年度の財政計画なので、盛り込める話と盛り込めない話等が出てくるので、最終的には市民の判断を願わなければならないと思っている。

### 少子化対策について

**質問** 少子化問題、人口減対策は、すべての産業、教育、医療等、地域の活性化そのものに関わる重要課題と捉えないのはなぜか。

**答弁** 少子化の背景は構造的なものや個人の生き方の問題

## 市の教育の方向性を聞きたい

柿崎 孝一 議員



### ゆとり教育について

**質問** ゆとり教育に対する見解と今後の市の教育のあり方、方向性を伺う。

**答弁** ゆとり教育は詰め込み一辺倒の教育からの脱却、生

涯にわたって学習を続ける子供の育成というふう捉えるならば、現在の授業のあり方を改善して、学校教育そのものを変えてゆくと考えている。

そういう中で確かな学力の

向上が果たされて、真に生きる力を持った子供の育成が果たされるものと思う。

横手市では38校全体の学力向上を図るべく、9年間の義務教育の中でどのように子供たちを育てるかという視点を

### 教科書選定について

**質問** 教科書選定の経緯と選定理由について伺う。

**答弁** 旧8市町村が一つの地区となつて、各教育委員会から2名、郡市PTA連合会の代表2名の計18名の選択協議会を組織した。各教委の代表は教育委員長、教育長、教職経験のある教育委員がなつている。

選択の流れは、28名の現場の教員を教科書調査員に委嘱

がからみ、極めて複雑な問題であるが、座視することなく対策を進めていく決意は強く持つている。

男女共同参画、子育て支援との連携、ファミリーサポートセンター事業の充実、福祉医療事業における所得制限の撤廃等々を実施しながら、側面から応援してまいりたい。次代を担う子どもたちが元気に生まれ成長できる環境をつくり作っていききたい。

し調査研究を進めてもらい、その調査結果を基に各教育長と各教科の代表者からなる選定委員会が検討を加え、選択協議会で選択の候補が選定され、この結果を基に各教育委員会が採択するということがある。専門性を十分生かし、採択の透明性、公平性を確保するように努めてきた。

本地区の各教科の目指す能力の育成に最も寄与するであろうと思われる教科書を選定している。

その他の質問事項  
・電子自治体のとりくみについて  
・農業問題について  
・学校の設備について  
・地域活性化について